

Tri-Heart ドクターカー Mobile ECMO仕様



弊社得意の「Tri-Heart ドクターカー ECMO仕様」です。今回、少し詳しくご紹介します。

この車両の使命としては、以下の3つになります。

- Mobile ECMO (救急車によるECMO搬送)
- 災害対応
- 地域医療

ベースシャーシには、4WDを選択

後側の車軸には、エアサスペンションが標準装備です。日本の救急車では、Tri-Heartだけだと思います。

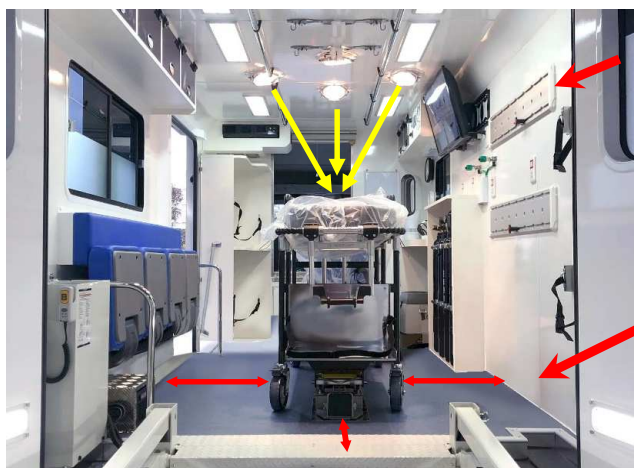


これが、ECMO用ストレッチャーです。(FERNO社製) Mobile ECMO の先進国、イギリスから仕入れます。同じシリーズの中でも、今回は高さを低いものを選択し、
 ・患者観察のしやすい高さ にしました。

また、後部機器台座のエレベータ機構を無くし、代わりに台座をオリジナルで製作したことで、
 ・ECMOやPCPSコントローラー搭載時安定性の向上
 ・ロック解除ペダルも踏み易くなり
 ・価格の低減にも繋がりました。

このストレッチャーは、ECMOやPCPSコントローラー以外に、下部に医療機器のABCDを集約できます → 医療機器と患者を一体で移動出来るのです。

車両へ搬入出リフトの装着は必須です。



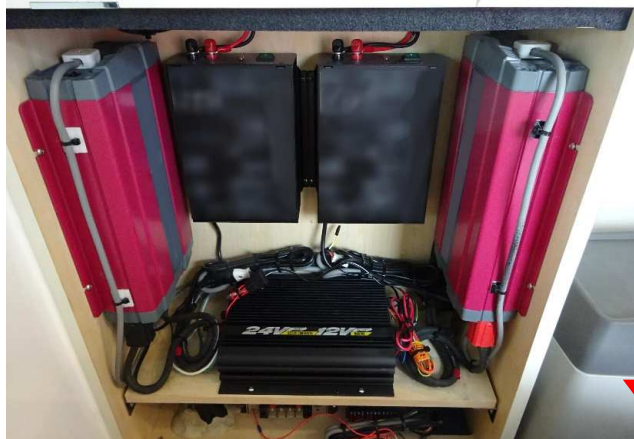
ECMOストレッチャーを搬入した室内 (後方から) 右壁面には、FERNO社製イントラックスを装備することで、室内の広さに相乗効果が出ます。

‘左右’でそれぞれ約60cmのスペースがあるだけでなく、左右への行き来出来るようストレッチャーの‘前後’にもスペースを確保したのは、第1号車仕様から踏襲。

※60cmは、人が行き来しやすい幅です。

タイヤハウス出っ張りが‘無い!’ ことが、お解りでしょうか？マイクロバスの流用ではなく、ドクターカー専用車ゆえです。

ECMOやPCPSを載せて搬送する以上、万一の際のリカバリースペースとして、この広さは重要と思います。



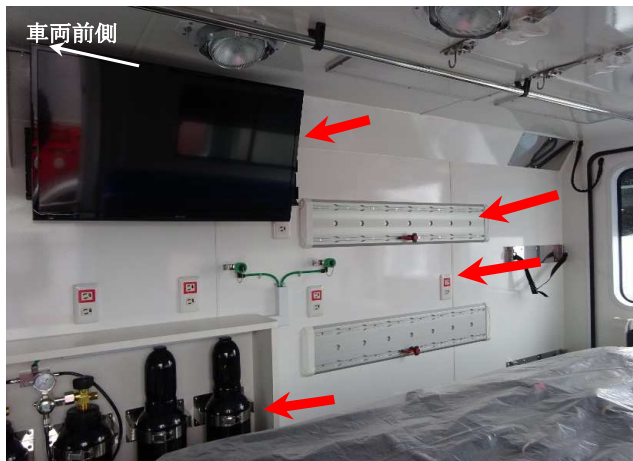
スペース以外にECMOカーの装備として重要になるのが、電源。

弊社のTri-Heart ドクターカー ECMO仕様では、AC100V 1500W ×2基を搭載しております。

両方同時使用も可能ですが、1基は万一の際の予備想定です。

ECPRでは万一の電力喪失が、人命喪失に繋がりがかねません。事故や故障、万一の際は、コンセントを繋ぎ変えることで電力復帰出来ます。

ここに見えているのは、冷温蔵庫です。



今回、大型サイズ32型モニターを装着してみました。

- ・災害出場時の情報収集
- ・パソコン等を繋いでの情報共有 用です

FERNO社製イントラックスは、上・中の2段にしました。
 長年運用するドクターカーの汎用性を高めてくれることでしょう。

AC100Vコンセントに赤枠が付いている方が非常用です。

酸素は、1500型を ×4本搭載



患者室の天井を左スライド扉側から見上げた図です。

患者胸部上で无影灯の効果を出せるように、患者灯を
 配列してみました。

※ 矢印はイメージです。



サイドタープを展開した様子です。かなり大きいです。
 災害想定ドクターカーやDMATカーにはおすすめです。
 サイドタープ側の外面には、作業灯を前後に装備しました。
 バックドアは、操作し易い観音式を選択しました。

車庫に合わせて、外線導入コネクタは左側へ取付しました。

<外観デザイン>

外観は、小倉先生からのリクエストに応え、優しい感じの
 デザインを提案させて頂きました。
 ペーシュピンク と シャンパンゴールド を使って優しさを表現し、
 ドクターカーらしさを表現する赤帯は、上記に合わせた
 ワインレッド を選択して調整しました。
 実物になって見ると、少し大人っぽい感じです。



地域のマスコットも

栃木県マスコットキャラクター「とちまるくん」と
 宇都宮市マスコットキャラクター「ミヤリー」は、
 このドクターカーのために医療従事者バージョンが作られました。